

「平成23年度視覚障害者社会教育指導者研修会」 (南丹会場) を開催しました!

10月31日(月)、秋の気配が深まりつつある京丹波町立和知中学校で、本年度の研修会を開催しました。中学校を会場として実施するのは、初めてのことです。

本研修会の趣旨

- ◇障害のある人の心豊かな生活に向けての学習活動や社会参加の促進を図るため、実践活動を交流・協議する。
- ◇障害や障害のある人についての正しい理解と認識を深めるための学習機会を提供するために必要な指導者としての資質の向上を図る。



和知中学校の生徒の皆さんの和知太鼓と合唱で開会しました。

オープニング

発表後、参加者された方々から、「太鼓を打つ生徒の皆さんの姿は見えなくても、心に響く音でした」「すばらしい合唱で、胸が熱くなった」などの感想が出されました。



和知太鼓も合唱も、まさに「人と人がつながる力」が生み出したものです。また、和知中学校の生徒の皆さんが、家庭や地域・学校、あらゆる場で周囲の身近な人々から温かく包み込まれながら育っていることがよく分かる発表でした。

研修 I

午前の研修は、和知中学2年生の皆さんとの交流です。



まず、「卓球バレー」を行いました。中学生と参加の視覚障害者の方々とでチームを作り、試合を行いました。始まった時こそ静かでしたが、次第に白熱してきて、点数が入るたびに拍手が起き歓声が上がりました。

年代を超えて、中学生と視覚障害者の方々が一緒に卓球台を囲み、中に金属球が入っていて音が鳴るボールに集中する姿と全員の笑顔が印象に残りました。

試合後の感想交流でも、「もっとやりたかったな」という声もあり、楽しい時間をともに過ごすことができました。

続いて、視覚障害者の方々から、生活上の困難や工夫についてお話をいただきました。その中で「山登りやゴルフが好きで、楽しんでいます」ということを聞いた中学生は一瞬驚いた様子でしたが、支援があればスポーツ活動も可能であることを理解することができました。

研修 II

午後の研修は、府立須知高等学校の松本 和久校長と坂本 正義農場部長から、「『食』から考える私たちの暮らし」と題した講演を聴きました。地域に根ざした須知高等学校の特色や「食」の安全や農業の大切さについて、具体的に学ぶことができました。



昼食は、外でのお弁当です。食べる場所まで、中学生が案内してくれました。その方法を説明してもらい、ガイドヘ



ルパーの方に助けていただきながら、実際にやってみました。到着したとき、お互いに交わす「ありがとうございました」の言葉が心に残りました。